静岡県立三島南高等学校第２回学校運営協議会議事録

１　開 催 日 時
令和５年６月３日(土)　開会：午前 10 時 00 分　閉会：午後 12 時 02 分

２　開 催 場 所
静岡県立三島南高等学校　会議室

３　出席委員数
５人（会長 三田 章裕・副会長 今村 貴幸・委員 鈴木 廣幸・委員 大嶋 孝博・
委員 冨田 奈緒美・委員 村上 利恵子）

４　函嶺祭文化の部（一般公開）自由見学

５　校 長 挨 拶
昨日２日、函嶺祭校内発表（三島市民文化会館）終了後、現地で生徒を下校としたため、一般公開の準備時間が確保できなかった。更に、本日朝から東海道線の不通や道路の渋滞等もあったため、一般公開を１時間遅らせて開催した。このように今回の函嶺祭は、台風２号の影響があったが実施する事ができて良かった。５日（月）の体育の部も実施できる見込みである。
前回の学校運営協議会以降の学校の様子としては、ＧＷ明けの中間テスト終了後、函嶺祭準備が活発となった。また、インターハイ予選では入場制限が無くなったこともあって、応援等に活気が戻っている。明日は女子バレー部が県大会決勝戦を草薙このはなアリーナで富士見高校と対戦する。

６　議事（司会：三田会長）
話題提供として、先日読んだ本の中に「－褒めて育てる事と叱る事の難しさ－太陽のような誉め言葉は子供の心を温めます。時に注がれる叱り言葉は大地に染み入る雨のように子供の心を潤します。褒める事と叱る事を水と油のように捉えるのではなく、適度のバランスで進める必要があります。」と書いてあった。
叱る事はマイナスのイメージに捉えられがちであるが、時と場合によっては叱る事が必要になってくる。最近はこの場面が少なくなり、子供の自己コントロール・社会性が育っていないと言われている。
先日、県教委がまとめた「家庭教育実態調査」の内容が静岡新聞に掲載された。その中で注目したいのは、叱ることより褒めることが上手く出来ていないと感じる保護者の割合が多いことである。((中学生約 45%) 自分の子育てが正しいか自信が持てない。(約 40%)躾の方法・タイミングが分からない。(約 20%)スマホ・ネットゲームの利用についてどの様に話したら分からない。）褒めて育てる言葉は大事である。しかし、どの場面でどの様に子供に声掛けをして働き掛けたら良いか保護者も悩んでいる。子供たちが達成感を持った時、それを認められた時に「良くやったね！頑張ったね！」と地道な声掛けを続けることにより自己肯定感が高められていくと考える。

(1)　「令和５年度総合的な探究の時間「自覚探究」の取組について
説明：図書探究課 教諭 川口 友里（図書探究課長） 教諭 諸星 恵理
ア　校訓「自覚」であるので、「自覚探究」と呼んでいる。

知（課題発見）仁（他者との関係）勇（課題解決に向けた行動）の力を身につけ、主体的に学び、自らの人生を切り開き、地域に貢献する人材を育成する。

イ　３年間の流れ

(ｱ)　１年生：①　自己探究（自己肯定感の向上）
　　②　地域資源探究（保育実習・企業訪問）

(ｲ)　２年生：①　地域資源探究（函嶺祭模擬店・修学旅行）
　　②　進路探究

(ｳ)　３年生：地域資源探究（函嶺祭模擬店）

ウ　函嶺祭出店（２・３年）

(ｱ)　１クラスで１店舗を運営する～仕入れから販売まで～をコンセプトに実施。店舗との交渉をしながら、販売メニューや売価、仕入れ数、装飾方法、広報、販売等を生徒が主体的に行っている。

(ｲ)　探究の目的は、最終的に「地域貢献」と「進路実現」。これらが、一人ひとりの生徒に繋がって行ける様にカリキュラムを作成している。

エ　自分ロゴ作成（１年）

目的は、自分自身を知り自分を見つめる機会と捉える。

(2)　意見交換（函嶺祭について及び探究活動について）

（鈴木委員）大場のお祭りにお手伝いに来て貰い有難かった。

（冨田委員）模擬店のネーミングに担任の名前を取り入れたりしていて感心をした。また、呼び込みも上手だった。

（村上委員）子供たちの活き活きした表情が見られて良かった。

（今村副会長）提携店舗としてやりたかった店もあると思われるが、選ばれる基準があるのか。

（鈴木校長）生徒自身が、提携したい店舗を選んで交渉をしている。

（今村副会長）主体的に行動し取り組んでいる様子が伺える。

（三田会長）中学校で職場体験を実施しているが、学校側が企業と調整しリストを作成し、その中から子供たちが選んでいる。三島南高校の取組は、生徒が主体的に店舗と関わっていく形なのか。

（鈴木校長）生徒たちは、先輩の姿を見ているので、販売のイメージや模擬店の様子が頭に残っている中で、自ら考えて取り組んでいる。

（三田会長）地域と繋がった三島南高校の独自性が出た文化祭になっている。この取組を広過ぎない範囲で工夫して行って貰いたい。

（大嶋委員）ロゴ作成のマインドマッピングに凄く良いことが書いてある。３年間大事にし、３年後の変化を振り返りの材料として取り上げる取組は面白い。

（鈴木校長）入学して３年間続けられない生徒や、コミュニケーションや人との繋がりの希薄さに不安を感じる生徒が昨年度顕著に現れた。そのため、生徒が自分の事を見つめたり、人とコミュニケーションを取ったりする仕掛けをした。探究活動の資料は３年間ファイリングしていくので、３年後に見返すと懐かしく思うとともに３年間の振り返りができると思う。

７　報告事項

（佐々木教頭）高校総体の結果についての説明。

（三田会長）部活動（運動部）の加入率が年々低下する中、３年間部活動をやり通す事は素晴らしい。個々の達成感・満足度が得られれば目標達成だと思う。

（冨田委員）子供が吹奏楽部に所属し、昨日の校内発表で全校生徒の前で演奏した。その際、友人から声を掛けられ励みになった事や嬉しかったこと、中学から

６年間続けてきてよかったことなどを話してくれた。

（村上委員）男子バスケットボール部の試合では、久しぶりに観客の入場制限が無くなったので、応援に行った。家では見せない元気な姿やチーム内で声を掛け合っている姿や楽しそうな表情を見て、しっかりやっている事が分かった。

８　令和５年度函嶺祭

実施内容等の説明　（生徒会長、副会長）

(1) スローガン「喜紡」（きぼう）は次の２つの希望から作った。

ア 生徒たちの喜びを繋ぐ。

イ 函嶺祭を成功させる。

(2) 模擬店

駄菓子屋からパン屋まで、飲食関連の 10 店舗とコラボしている。

１つのお店とコラボし、生徒が自ら店舗にアポ取りするところから、価格や商品数等の話し合いを店舗と進めて来た。各クラスの装飾も工夫している。

(3) 発表の見どころ

「演劇部」は関東大会に出場した実力、「日本文化部」は琴の演奏し、茶道のお点前も披露する。両立させることは難しいことだが、疲れが吹き飛んでしまうくらいのリラックスした演奏を披露する。「音楽部」はピアノとバンドの２種類がある。部活としてピアノの演奏が聴けるのは魅力的。バンドは少人数とは思えないほどの迫力の演奏をする。「吹奏楽部」は見ているだけでも楽しい気持ちに成るように、１年生のダンスが含まれている。

（大嶋委員）スローガンは誰が決めたのか。

（生徒会長）学校全体でアンケートを取り、その中から生徒会執行部が抽出し、再度アンケートを取って決定した。

（大嶋委員）良い言葉だと思う。

９　閉会（今村副会長）

部活動が活性していると学校が元気になると感じる。色々大変な面も有ると思うが、引き続き御指導をお願いしたい。

10　今後の予定

第３回　11月 11 日（土）の前後　授業見学と諸課題の協議

第４回　２月上旬　　年間反省、学校評価、課題について協議